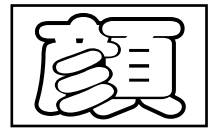


はまなす

第118号 令和5年10月31日

<特集>

地域の特徴を生かした
学校づくり、教育活動の展開 (2面)



特別支援教育の さらなる推進を

佐渡特別支援学校

水谷 武



特別支援学校で
当時、担任として勤務していた頃、昼休みに児童の連絡帳を書きながら、不覚にも睡魔に襲われコックリ、コックリ。すると、その様子を見ていた児童Aさんが「真顔で一言「大丈夫？」。そして「真顔で一言「大丈夫？」。どうやら私の具合が悪いと思つての声掛けだったよう。なんと温かな空気感！一層子どもたちが愛おしくなつたことを昨日のように思い出す。

自立活動の位置付けと 指導の必要性

小学校で特別支援学級を担任するある先生に、学級にいる児童Bさんの自立活動の指導について尋ねてみた。すると、「歯磨きも、着替えも一人でできるので大丈夫です。」の回答が返ってきた。

令和四年四月、文科省からの「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について（通知）」では、「交流及び共同学習」の意義や留意点、特別支援学級で行う授業の週時数の目安などが示された。一方で、特別支援学級での自立活動の実際に関する指摘がなされている。自立活動とは、「障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする指

導領域」であり、通級、特別支援学級・学校など、特別な教育的ニーズを必要とする児童生徒の学びの場それぞれに共通する教育課程の一つといえる。その内容は下表のとおり、「健康の保持」をはじめとする六つの区分と、区分ごとに三〜五の項目を含む全二十七項目で示されている。であるから、前述のように、Bさんの自立活動は「大丈夫」とはならない。自立活動が必要ないのであれば、通常の学級への在籍替えを検討すべきである。

力強い学級・学校づくりに向けて

これからの特別支援学級の適切な運営にあたっては、まず、自立活動への理解を一層深めることが大切である。そのために例えば、自立活動の六つの区分を実態把握の視点として一人一人を捉えるようにしてはどうだろうか。必然的に職員同士で自立活動を語り合う機会となるのではない。

次に、自立活動の指導をどのような形で位置付けるかが大切である。週時程の中に、自立活動の時間における指導と教科等の中で行う指導を明確にする必要がある。そして、担任・管理職は、対象とする子ども自立活動の必要性や目標、指導内容等について、本人・保護者への

合理的配慮の提供として説明責任を果たさねばならない。ここは各学校の腕の見せ所であるとともに、特別支援教育の本気度が問われることになるかもしれない。

Aさんと自立活動

冒頭のAさんは、高等部を卒業して社会人となった。その間、地域の飲食店へお金を持たずに訪れ、好きなメニューを注文したり、スマホゲームに支払い切れない額の課金をしたりして、周りに大変な迷惑を掛けながらも、みんなに愛される社会人になつていると聞いた。

小さい頃から、金銭感覚や金銭管理を育むための自立活動の指導に取り組んでいたら、Aさんには、もつと豊かな生活が待っていただけなのかもしれない。

自立活動の内容

区分(6)	項目(27)
健康の保持	「生活のリズムや生活習慣の形成」など5項目
心理的な安定	「情緒の安定」など3項目
人間関係の形成	「他者とのかかわりの基礎」など4項目
環境の把握	「保有する感覚の活用」など5項目
身体の動き	「姿勢と運動・動作の基本的技能」など5項目
コミュニケーション	「コミュニケーションの基礎的能力」など5項目

はまなす抄



謙虚に学ぶ

行谷小学校
永井 智祐

大谷翔平選手の投打に渡る二刀流の活躍は、今シーズンも多方面を賑わせた。大谷選手はもちろんだが、昭和世代の私にとつて、二刀流は剣豪「宮本武蔵」である。宮本武蔵と言えば、歴史小説家の吉川英治。その吉川英治が好んで使つた言葉が「我が外皆我師」。自分以外の人、もの全てから学ぶことができるという意味である。多様な価値観と正対する今日である。人・もの・ことを一方向から見るとはなく、素直な気持ちでそのよきを見て吸収することが今まで以上に求められている。何より私達教員は常に新しい知識や情報を取り入れ、自己の資質と能力を高めていく必要がある。趣味の分野でも構わない。アメリカの思想家エマーソンも「私が出会う人は皆、私より優れている人がある」と同僚、子ども、保護者、地域、そして我々研修の仲間から積極的に、かつ謙虚に学ぶ気持ちで自分の幅を広げることにつながるかと考える。

(平二)

〔特集〕地域の特色を生かした学校づくり、教育活動の展開

地域とともに創る学校行事 ―地域と学校のコラボレーション 文化祭の取組―



七浦小学校
高橋 健

昨年度、七浦地域と七浦小学校の
コラボレーション文化祭の取組が、
「コミュニティ・スクールと地域学
校協働活動の一体的推進」に係る文
部科学大臣表彰を受けた。

このコラボレーション文化祭の端
緒は三年前の令和二年度に遡る。

令和二年三月の新型ウイルス感染
症に伴う臨時休校により学校行事が
二学期に集中した。また、教科の時
数確保を優先したために文化祭の学
習発表練習にかける時間が不足し、
例年どおりの発表が難しくなった。

このことを学校運営協議会で相談
したところ、委員からは「この七浦
地域には自慢できる伝統的文化や特
色ある活動があり、活力ある人材が
たくさんいるが、児童にはあまり知
られていない」という声も上がった。
熟議の結果、地域と学校のコラボ
レーション文化祭なら二つの課題を
同時に解決できるのではないかと
いう結論に至った。

この結果を受け、地域コーディネ

ネーターを中心にコラボレーション
文化祭実現に向けた地域学校協働活
動がスタートした。案内作成と配付、
出演順の調整、プログラム作成等の
準備を一つ一つこなしていった。

そして、令和二年十月二十五日、
第一回コラボレーション文化祭が開
催された。学校からの出演は民謡ク
ラブの演奏と五・六年の合奏の二つ、
地域からはアキシオンムービー、民
話・紙芝居・楽器演奏、剣道の演武、
民謡、演劇の五つの出演が実現した。
正に地域と学校がともに創り上げた
文化祭となった。

今年度は創立
百五十周年記念
式典と合わせて
十一月に開催す
る。新たな出演
希望もあり、地
域に根差した文
化祭として定着
している。

(平4)



『社会と連動する 地域おこし』



松ヶ崎中学校
藤原 靖也

『松ヶ崎留学』は当校の大きな特
色の一つである。関連する活動とし
て、「総合的な学習の時間」に小中
学校が連携して「社会と連動する地
域おこし」に取り組んでいる。

生徒は、「ツアー」「民泊」「食（柿
と塩）」の各班に分かれ、二〇三〇
年の松ヶ崎の姿を思い描き、その実
現に向けた地域人材との連携による
プロジェクトを立ち上げた。

そして、『松ヶ崎留学体験説明会』
を九月と十月に実施する。参加者に
地域の良さを知ってもらおうと学校
説明会とレクリエーション、釣りや
柿の収穫、塩作りなどの体験を企画
している。

昨年度の同様の活動では、参加者
から「子どもたちや職員・保護者の
方がとても温かく受け入れてくださ
り、松ヶ崎地区のポテンシャルの高
さに感動した。」との感謝のお手紙
をいただくことができた。

今年も、松ヶ崎に育つ子どもたち
と地域の未来を築くための持続可能

な協働体を、学校・保護者・地域が
力を合わせて育んでいきたい。
(平4)

